

# 令和5年度 府中市立府中第九中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

## 第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠を明確にして、意見を言語化すること。</li> <li>・必要な情報に着目して要約すること。</li> <li>・読み手の立場に立ち、叙述の仕方を確かめ、文章を整えること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慣れるまでは、根拠の書き方の型を提示し、書きやすいようにする。</li> <li>・重要な部分に線を引かせたり、意見交換する機会を設けたりする。</li> <li>・自分で確認する時間を設けたり、周囲で読み合う時間を設けたりし、推敲に時間をかける。</li> </ul>		
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察する力。</li> <li>・粘り強く考え、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援員と連携し、生徒のつまづきに応じた指導を実施する。</li> <li>・説明させる問題を取り上げる機会を増やすことで、思考力を身に付けられるようにする。</li> <li>・ワークの問題に毎日継続して取り組む課題を出すことで、生徒の主体性を育む。</li> </ul>		
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身のまわりの自然事象と授業で学んでいることが結び付いていない。</li> <li>・物事を科学的に思考、判断し、論理的に順序立てて表現する力が身に付いていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然事象や科学の時事的なニュースを導入に用いるなど工夫する。</li> <li>・授業内で思考、判断、表現力する機会を増やす。また、発問を工夫する。</li> </ul>		
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な内容については理解できている生徒も多いが、思考力・判断力・表現力が身に付いていない。</li> <li>・社会的事象を多面的・多角的にとらえ、説明する力が身に付いていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力・判断力・表現力が求められる問いを多く設定する。</li> <li>・問いや課題に対する考えを出しやすいような資料や情報の提示を工夫する。</li> </ul>		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標と計画を立て、実行し、自分の学びを振り返る力が弱い。</li> <li>・音楽に関する基礎的な技能（歌唱・器楽）が身に付いていない。</li> <li>・音楽に関する基本的な知識（読譜力）が活用できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の振り返りに対し、次の授業でフィードバックし、どのように学習を組み立て進めていくかを提示する。</li> <li>・常時活動で発声や既習曲を歌いながら、基礎力の定着を促す。</li> <li>・読譜力をつけるために、なるべく多く楽譜に触れ、リズムや音高についての定着を図る。</li> <li>・知識を活用する場面を多く設定する。</li> </ul>		
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画を立てて学習を進めることが苦手な生徒が多い。</li> <li>・基礎的な技能を身に付け向上していくこと。</li> <li>・完成度を高めるためのビジョンをもちながら制作していくこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもって粘り強く取り組ませるために本日の予定と実際にやったことを記入させ、進み具合を把握させ制作時間を意識させる。</li> <li>・作家や先輩の作品を参考にして、完成のイメージを明確にする。</li> <li>・試行錯誤を繰り返し完成度を高めることで、達成感・充実感を高める。</li> </ul>		
技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品製作が授業の中心と考えてしまう生徒が一定数おり、問題解決の一つとしての製作という流れを理解できていない。</li> <li>・既存の製作品や周囲の生活環境を、客観的に評価するなどの経験が乏しく、より良くするためにどうすべきなのかという改良、応用の視点がもてていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料と加工の技術において、問題発見、課題設定、課題解決の流れを取り入れ、製作品によって解決したかどうかを振り返る学習を取り入れる。</li> <li>・身の回りの問題点に目を向け、改良点を思考する課題に取り組む。</li> </ul>		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・技能が生活の一場面とつながっているというイメージをもって学習に取り組むことができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した知識・技能を生活でどのように生かしていくか具体的な例を提示しながら、思考し、判断、表現できるようにする。</li> </ul>		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの結果によると運動する習慣はあるものの、巧緻性・瞬発力、全身持久力の能力が低い。</li> <li>・自己の課題を解決する力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種目に応じた補強運動を取り入れるとともに、生活の中で活用できる知識を育成する。</li> <li>・生徒が考える場面を設ける。また、単元ごとにイラストを使い視覚的に動きを理解できるようにし、イメージの膨らむ授業を行う。</li> </ul>		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な情報や、相手の考えや気持ちを理解したり、自己表現したりする力が弱い。</li> <li>・知識が定着するまでに時間がかかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いのことや考え等をペアやグループで伝え合ったり、書いてまとめたりする言語活動を継続的に行っていく。</li> <li>・読解力は、教科書本文の導入をワークシートを使って長文読解につながる活動を行っていく。</li> </ul>		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

# 令和5年度 府中市立府中第九中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

## 第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体化と抽象化の目的を理解し、わかりやすい説明の、適切に要約する力を伸ばすこと。</li> <li>・心情を理解し、感じたことを表現する語彙を増やして伝えあう力を伸ばすこと。</li> <li>・敬語を含む、その場面にあった表現や会話力を伸ばすこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体と抽象の対比を意識させて整理する場面を授業の中に積極的に設けていく。</li> <li>・生徒の意見交流の場面を授業内に設定し、自分以外の生徒の表現に数多く触れさせる機会を作っていく。</li> <li>・敬語の基本的なルールを学ばせ、場面を意識した会話のしかたを考えさせる機会を作っていく。</li> </ul>		
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察する力が弱い。</li> <li>・粘り強く考え、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援員と連携し、生徒のつまずきに応じた指導を実施する。</li> <li>・説明させる問題について、相手に説明し、思考力・表現力を身に付けられるようにする。</li> <li>・ワークの問題に毎日継続して取り組む課題を出すことで、生徒の主体性を育む。</li> </ul>		
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身のまわりの自然事象を、科学的根拠に基づき考えることや、そこから論理的に思考し表現することを苦手とする生徒がいる。</li> <li>・物事を順序立てて考えることも苦手としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力・判断力・表現力が求められる問いを多く設定する。</li> <li>・科学的根拠があるかどうか振り返ることや、他者の意見を共有する活動を行う。</li> <li>・物事を順序だてて考えられるように発問を工夫する。</li> </ul>		
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに学習した地理と歴史の内容を、現在学習している内容と結びつけることができていない。</li> <li>・授業内容の問いや課題に対する、多角度・多面的なものの見方、課題解決策や課題改善策を考える力に乏しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容とどのようなつながりや関わりがあるのかを授業内で明示する。またできる限り生徒から引き出すような発問を工夫する。</li> <li>・問いや課題に対する考えを出しやすいような資料や情報の提示を工夫する。</li> </ul>		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に関する基礎的な技能（歌唱・創作）が身に付いていない。</li> <li>・音楽に関する基本的な知識（読譜力）が十分でない。</li> <li>・音楽を聴いて、気付いたり感じたりしたことと学習した知識を関連付けて、音楽のよさや魅力について文章等で表現する力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の音楽表現について客観的に振り返りができるように ICT 機器を活用する。</li> <li>・創作における記譜へのつまずきを解消するために ICT 機器を活用し、本来の学習内容の充実を図る。</li> <li>・リズムや音楽用語については既習事項と絡めながら、その都度確認していく。</li> <li>・音楽に関する語彙を増やすために、鑑賞の授業だけでなく、表現の分野でも自分が感じたことや気付いたことを発言させる場面を設定する。</li> </ul>		
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画性をもち作業を進めていく力が弱い。</li> <li>・自由な発想をもち、具体化し制作する力が弱い。</li> <li>・既習事項を活用したり、応用する力が弱い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもって取り組ませるために、制作カードを記入し、進行具合を明確にする。</li> <li>・1 年次の既習事項の振り返りをしつつ、それらの知識技能を活用してより良いものを作るよう発問を工夫する。</li> <li>・試行錯誤を繰り返し完成度を高められるよう、アイデアスケッチを具体的に描かせる。</li> </ul>		
技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習が授業の中心と考えてしまう生徒が一定数おり、解決方法の表現の一つとしての実習という流れを理解できていない。</li> <li>・身の回りの技術を、客観的に評価するなどの経験が乏しく、より良くするためにどうすべきなのかという改良、応用の視点がもてていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物育成の技術において、問題発見、課題設定、課題解決の流れを取り入れ、育成実習の問題点を見出し、解決方法を思考し実践する学習を取り入れる。</li> <li>・身の回りの問題点に目を向け、改良点を思考する課題に取り組む。</li> </ul>		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・技能が生活の一場面とつながっているというイメージをもって学習に取り組むことができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した知識・技能を生活でどのように生かしていくか具体的な例を提示しながら、思考し、判断、表現できるようにする。</li> </ul>		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの結果によると、運動の習慣はあるものの、筋力・筋持久力、巧緻性・瞬発力の能力が低い。</li> <li>・自己やグループの課題を解決する力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種目に応じた補強運動を取り入れるとともに、生活の中で活用できる知識を育成する。</li> <li>・グループや個に応じたワークシートを活用しながら、生徒が考える場面を設ける。</li> <li>・イラストや ICT 教材を使い視覚的に動きを理解できるようにする。</li> </ul>		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を活用して自分の考えを伝える力が弱い。</li> <li>・表現したいことを、日本語をそのまま英語にしようとしているのでうまく言えないことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの基本表現を何度も活用させ、インプットを丁寧にする。単元終了後も、くり返しその表現を使うような場面を設定し、活用させる。</li> <li>・対話練習や、文章の読み取りに対する答え方なども、できる限り文で答えることを意識させ、英語の文の語順に慣れるようにする。</li> </ul>		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

# 令和5年度 府中市立府中第九中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

## 第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。</li> <li>目的や場面に応じて質問する内容などを検討すること。</li> <li>古典における文語の決まりや訓読の仕方を身に付けること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明的文章の読解だけでなく、意見文を書く際に、意見と根拠の関係を確認させる活動を増やす。</li> <li>質問の内容の妥当性について、交流する機会を増やす。</li> <li>古典の授業では音読の時間を増やし、古典のリズムに慣れさせることで、定着させる。</li> </ul>		
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察する力。</li> <li>粘り強く考え、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習支援員と連携し、生徒のつまづきに応じた指導を実施する。</li> <li>説明させる問題について、相手に説明し、思考力・表現力を身に付けられるようにする。</li> <li>日々の授業に振り返りの時間を設け、自分の言葉で内容を整理させることにより、よりよい学びにつなげていけるようにする。</li> </ul>		
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な科学法則と学習した規則性や法則性を、現実の事象と結びつけて説明できる能力の育成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験で得たデータの信頼性を検証するとともに、科学的な根拠に基づいた思考の時間をつくり、自然事象について説明する課題を設定する</li> </ul>		
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項と学習中の内容との関連付けができていない。</li> <li>授業内容の問いや課題に対する、多角度・多面的なものの見方、課題解決策や課題改善策を考える力に乏しく、他教科との関係性や現状の国際情勢との関わりの視点が無い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項とどのようなつながりや関わりがあるのかを授業内で明示する。またできる限り生徒から引き出すような発問を工夫する。</li> <li>問いや課題に対する考えを出しやすいような資料や情報の提示を工夫し、日々のニュースや国際情勢などについても提示することでそのときどきの最新の情報を伝えていく。</li> </ul>		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を聴いて、気付いたり感じたりしたこと、学習した知識を関連付けて、音楽のよさや魅力について文章等で表現する力が弱い。</li> <li>これまで学んだことを生かして、どのように表現したいか試行錯誤し、音楽表現する力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者の意見や板書の内容を取り入れながら、自分の考えを深められるように、ICTの活用やワークシートを工夫、意見交換の場面を確保する。</li> <li>音楽表現が分かりやすい題材を選び、取り組ませる。</li> <li>グループワークを適宜取り入れ、多様な考えや価値観に触れさせる。</li> </ul>		
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的に製作時間を意識して作業を進めていくこと。</li> <li>既存のものでなく、オリジナリティあふれる自由な発想を展開すること。</li> <li>課題をふまえたテーマの設定、構成する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しをもって取り組ませるために制作カードを記入し、毎時間の進捗具合を意識させる。</li> <li>3年間学んだことをもとに、修学旅行や、今後の生活全般で生かせる実践的な技術や知識を身につける。</li> <li>お互いに意見を出し合い、試行錯誤し、見解を深めることで、課題をふまえ、テーマ設定、アイディアスケッチできるようにする。</li> </ul>		
技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習とのつながりを意識できていない生徒が一定数おり、これまで見出してきた問題点を、情報の技術で解決するという思考ができない。</li> <li>既存の製作品や周囲の生活環境を、客観的に評価するなどの経験が乏しく、より良くするためにどうすべきなのかという改良、応用の視点がもてていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の技術の学習において、これまで見出した問題点に対して、新たな、より良い解決方法を思考する学習を取り入れる。</li> <li>身の回りの問題点に目を向け、改良点を思考する課題に取り組む。</li> </ul>		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した内容の知識を相互に関連付けてより深く理解することができていない生徒が一定数いる。家庭科だけではなく他教科との関連も意識して取り組むことができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項の確認をし、現在の社会の姿に目を向け、よりよい生活を目指すための課題解決学習を実践する。</li> </ul>		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響もあり全体的に体力が落ちている。どの種目も昨年よりも向上はみられるものの投力や持久力が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種目に応じた補強運動を取り入れ、投力や持久力を高めると共に、基礎的な体力の向上を図る。持久力に関しては保健の授業も通し、生活の中で活用できる知識を育成する。</li> <li>各種目において学習カードを使い、あらかじめ個人で考えたことを意見交換し、他人の意見を聞くことで自分の考えをより妥当なものとするようにする。</li> </ul>		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面や状況を英語で伝える力。</li> <li>対話のやり取りの中で、相手の話を理解し自分の意見や気持ちを即興的に伝える力。</li> <li>英語で書かれた文章を理解し、自分の言葉で相手に説明する力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアワークやグループの中で自分の考えや意見をやり取りする言語活動を継続的に行う。</li> <li>動画や絵などを用いて様々な場面を用意し、その場面や状況を伝え合う言語活動を継続的に行う。</li> <li>教科書本文の導入をワークシートを使って、長文読解につながる活動を行う。その後自分の考えを表現する活動を継続的に行う。</li> </ul>		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。